2023年11月

民際協力ニュース

パルシック ニュース VOL.43

パルシック PARC Inter-peoples' Cooperation

「第二のナクバになりたくない」ガザからの声

10月7日にパレスチナ・ガザ地区の抵抗勢力ハマスらが行ったイスラエル側への奇襲攻撃に対し、報復を掲げるイスラエル軍による大規模な無差別ミサイル攻撃に始まる殺傷が続いています。ガザ側では5791名、イスラエルでは1400名が亡くなりました（10月24日現在）。現時点でパルシック・ガザ事務所の職員6名の無事はなんとか確認できていますが、これまで支援してきたガザの女性たちや畜産農家の安否は不明です。

戦争開始直後、ガザ事務所の大黒柱サハルは「私は死んだ後も、死ぬ間際まで笑っていた強いサハルとしてみんなの記憶に残りたい」と伝えてきました。しかしその後、空爆によってサハルの自宅は半壊、兄弟も親友も殺されました。サハルは今も笑えるように必死でがんばっています。

イスラエルは空爆を続けつつ、ガザ北部の住民に避難を勧告しました。ガザ事務所のタグリードは「第二のナクバが起きてしまう」と悲痛な叫びをあげています。イスラエル建国の1948年、元々この土地に住んでいたパレスチナ人は暴力的に故郷を追われ、70万人以上が難民となりました。パレスチナ人はこれを「ナクバ（大災厄）」と呼びます。そして56年前の第三次中東戦争以来、パレスチナはイスラエルの軍事占領下におかれ、土地を奪われ、移動を制限され、日常的な暴力や人権侵害を受け続けています。「天井のない監獄」と呼ばれてきたのがガザ地区です。

今、ガザの人びとは、一秒でも早く停戦となることを切望しています。パルシックも、多くの子どもを含む市民の血がこれ以上流されることのないよう、武力行為を即時停止することをイスラエルとハマスら双方に求めます。また食料や医薬品などの緊急支援の準備を始めています。

そして停戦の先に、ガザの、そしてパレスチナの人びとに真の持続的な平和が、つまり人間としての尊厳ある普通の生活がもたらされるように、国際社会の声を高めるための市民連帯を呼びかけます。皆さんがこの記事を読んでくださったように、関心を持ちつづけ、私たちと共に考えつづけてくださるようお願いいたします。

空爆下でも笑顔で耐えようとがんばるサハルと姪っ子たち

電気がないため、危険を伴いながらもガスを使って自家発電している

ガザスタッフの一人、シャディの兄弟が経営する洋服屋が空爆の被害を受けた。周辺の様子

パレスチナ・ガザ緊急支援へのご寄付

■**クレジットカード**（webサイト）
https://www.parcic.org/news/23297/

■**銀行振り込み**（ゆうちょ銀行から）
記号：10180
番号：77335011
名義：特定非営利活動法人パルシック

■**銀行振り込み**（ゆうちょ銀行以外から）
店名：〇一八
店番：018（普通）7733501
名義：特定非営利活動法人パルシック

寄付ページ
QRコード

＊お振込みの際は、お名前・ご住所をご連絡ください。

目次

パレスチナ　「第二のナクバになりたくない」ガザからの声…… 1
東ティモール　女性たちと取り組む花卉栽培と栄養改善／**希望の見えないミャンマー**　増え続ける国内避難民…… 2
レバノン　国籍を越えて、手を取り合う子どもたち／**シリア**　紛争の地に再び収穫の喜びを…… 3
トルコ　復興再建への遠い道のり／**シリア**　夜に安心して眠れる家を…… 4
みんかふぇ　定期勉強会を始めました―ボランティアの方々とともに／**民際教育**　夏のマレーシア・ペナンでのフィールドワーク…… 5
フェアトレード　スリランカ　エクサがつくる“みんなの店”／フェアトレード　日々のこと…… 6
新商品のご案内／「東ティモール 美味しいコーヒーに出会う旅」開催報告／ちょっと寄り道♪フェアトレードな人びと…… 7
パルシックからのお知らせ　イベント開催や出店、講師登壇のご報告／Webサイト＆寄付ページ　リニューアル！／新しくなったパルシックサポーターに参加しませんか？／寄付・会員募集…… 8

東ティモール　女性たちと取り組む花卉栽培と栄養改善

東ティモールでは、5歳未満の子どもの47％が発育不全で、山間部ではその割合がさらに高くなっています。山間部では、たんぱく源となる食材が圧倒的に不足していることが原因の一つで、普段の食事は、米やイモ類などの炭水化物に偏っています。そこでパルシックは、女性たちが花卉（切り花）栽培によって収入を得て、肉や魚などの動物性たんぱく質の源となる食材を購入できるようにすることで、家庭の食事の栄養バランスの改善につなげる取り組みをしています。栄養教室や花卉栽培の実践と、活動の内容は盛りだくさんです。また、切り花だけでなく、たんぱく源となる食材が女性たちの身近な食材として使用できるように、オラ・プロ・ノビス（モクキリン）やツルムラサキなど、植物性たんぱく質の豊富な植物の栽培を研修内容に含める工夫をしています。

インドネシアから耐病性のある菊の苗を輸入するため、東ティモール農水省検疫局から許可を取ったり、乾季の強風でグリーンハウスのビニールが飛ばされたり、アブラムシ対処に追われたり……。花卉栽培は始まったばかりですが、忍耐強い女性たちと、東ティモール産切り花を市場へ定期出荷するためのトライアンドエラーを続け、確実な収入につながるよう取り組んでいきます。

（林知美）

（この事業は、日本NGO連携無償資金協力の助成と皆さまからのご寄付で実施しています。）

3大栄養素についてゲームで学ぶアイレウ県の女性たち

人びとの声

ドミンガスさん
（アイナロ県女性グループ）

インドネシアから輸入した菊の苗を育てるアイナロ県の女性たち

私たちより先に菊の栽培を始めたアイレウ県のグループを訪問し、電灯照明やフラワーネットを使用した茎を長く育てる手法などを見てとても刺激となりました。この事業で切り花の栽培に挑戦できることにワクワクしています。水やりや草抜きなど日々の作業は曜日で担当を決めています。忙しくて担当の曜日に来ない人がいるなどグループでの栽培は大変な面もありますが、みんなでおしゃべりしながらの農作業を楽しんでいます。

希望の見えないミャンマー　増え続ける国内避難民

2021年2月のクーデターから、もうすぐ3年が経とうとしています。国軍は、市民への弾圧の手を全く緩めていません。この半年だけでも、子ども150人を含む少なくとも900人が殺害されました。一日当たり5人が殺されていることになります。大都市ヤンゴンやネピドーでは目立った戦闘はなく、日本からの渡航も可能です。しかし、マグウェやザガインをはじめ他の地域では激しい戦闘が続き、国内避難民（国内で避難を続ける人びと）の数は今もなお増加し続けています。状況は、国軍対市民という単純な構造ではなく、国軍と共闘する武装組織もあれば、対国軍であっても市民を弾圧する武装組織もあります。

パルシックは2022年の春から、ミャンマー市民への支援活動を続けてきました。クーデターから時が経ち、さらにはインフレにより、国内避難民の生活は非常に厳しい状態です。麻薬に手を出した人もいます。専門家の間では、この状況があと10年は続くという見方があります。あるいは大きな戦闘が起きて、どちらか一方が勝利し、状況が大きく変わる可能性もあります。どちらの事態が起きても、今後も多くの市民が犠牲となることが予想されます。人びとが1日でも早く、自立した尊厳のある暮らしを取り戻せるよう、パルシックは活動を続けていきます。

（この事業は、ジャパン・プラットフォームの助成と皆さまからのご寄付で実施しています。）

国内避難民キャンプの様子

人びとの声

教育支援事業に参加する教師ボランティアのKさん

パルシックから受け取った教師用指導書がとても役に立っています。これまでは、自分も受けた詰め込み型の教育をしていましたが、教師用指導書のおかげで生徒中心の指導法へと改善することが出来ました。教師として成長を続けられていると感じています。今回の支援で、生徒たちは文房具をもらって、毎日登校するモチベーションになったようです。生徒たちが積極的に授業に参加してくれてとてもうれしいです。また報酬も受けとれて、病気の家族に薬を買ったり、誕生日の生徒に飴をあげたりできるようにもなりました。

十分な数の教室が無く、一つの教室で複数の学年が学ぶ

レバノン　国籍を越えて、手を取り合う子どもたち

レバノンは、依然として経済回復の兆しを見せず、物価高騰に苛まれ、人びとは厳しい生活を強いられています。パルシックは、レバノン北部のアルサール市にある学校で小学生のシリア難民の子どもたちへの教育支援と、レバノン人の困窮世帯の子どもたちへの通学支援を実施しています。

通常の学期終了後の2023年7月半ばから8月半ばにかけて、シリア人生徒230名と補習授業が必要なレバノン人生徒120名を対象にサマースクールを実施しました。普段は別々の教室で学ぶ彼らですが、この期間は一緒に授業を受けるほか、歌の合唱や運動を通して交流を深めました。今まで接することのなかった子と知り合う機会ができ、友だちが増えてうれしいと生徒たちは明るく話してくれました。授業中には、分からなかった箇所を確認し合う姿も見られました。最終日には運動会が実施され、子どもたちはこれまで練習してきた成果を存分に披露しました。手を繋いでダンスの発表をし、障害物競走では競い合い、大人も子どもも終始笑顔にあふれた一日。国籍を越えて応援し合う子どもたちの姿を見て、改めて事業を通じて両者の相互理解と信頼関係を促進できるよう努めたいと感じました。私たちは、今後も彼らの学びを支援する事業を継続していきます。

（佐藤）

（この事業は、ジャパン・プラットフォームの助成と皆さまからのご寄付で実施しています。）

運動会にて、元気いっぱいの子どもたち

人びとの様子

夏の間に育まれた友情

サマースクールでは、シリア人とレバノン人の生徒たちは最初こそ互いに少し緊張していたものの、両者が打ち解けるのに長い時間はかかりませんでした。

レバノン人のユセフは英語が苦手で、授業中もほとんど黙っている生徒でした。ある時、シリア人のムスタファが隣に座って話しかけ、彼が分からない箇所を助けるようになりました。そのお陰で、ユセフは英語が好きになり、熱心に勉強するようになりました。

2人は授業以外でも庭で一緒に過ごし、お弁当を分け合いました。彼らが親友になるのに、国籍は関係なかったのです。

勉強中のユセフ（左）とムスタファ（右）

シリア　紛争の地に再び収穫の喜びを

2011年にシリア紛争が始まってから、12年が経ちました。かつては農業大国だったシリアは、紛争による混乱や農地の荒廃のため農業生産は激減。さらに経済制裁や隣国レバノンの経済危機、ウクライナ危機等に伴う貨幣価値の暴落や物価高騰の影響により、深刻な食糧危機に陥っています。そうした中、パルシックは2020年からシリア国内で小麦や野菜の農業支援を実施しています。多くの農家は種や苗だけをもらっても、それを収穫に結びつけることができません。トラクターやポンプのレンタル代、燃料費、肥料や除草剤など、農業に必要なさまざまな費用を捻出することが難しいのです。パルシックは1年の農業サイクルに必要な物資を支援するほか、研修を実施して気候変動や病虫害への対応方法なども学べるようにしました。

今年の夏は記録的な酷暑に見舞われましたが、パルシックが支援した農家は十分な収穫を得ることができました。農家はそこから得た収入を元手に、来年は自力で農業を継続することができます。収穫した農産物は地元の市場で販売され、地域の人びとは手頃な価格で食料を入手することができ、食糧危機の緩和にも貢献しています。かつては当たり前のように機能していた食糧生産システムがもう一度動き出し、現地の人びとが「普通の暮らし」を取り戻せるよう、今後も支援していきます。

（アンソニー／岡崎）

（この事業は、ジャパン・プラットフォームの助成と皆さまからのご寄付で実施しています。）

収穫した野菜と畑の様子

人びとの声

農業支援を受けたアミナさん

夫は足が不自由で働けないため、私が働いて生活を支えています。農業を再開しようと、水を汲み上げるための発電機を借金して購入しましたが、燃料が高くて買えず、途方に暮れていました。パルシックの支援を受けて、種や苗だけでなく、燃料なども配付してもらい、ようやく農業を再開することができました。収穫した野菜を販売した利益で借金を返すことができた上、夫の足の治療に必要な薬代も捻出することができました。

野菜を収穫するアミナさん

トルコ　復興再建への遠い道のり

トルコでも気温が下がり始め、秋の香りがしてきました。パルシックが活動するカフラマンマラシュ県では木々が徐々に彩づきはじめています。トルコ・シリア地震の発生から半年以上が経ち、日々の生活も活気を取り戻してきました。しかし、被災地の多くでは、未だに震災の名残がまるで染めつけられた布のように色濃く残っており、復興への道のりはまだまだ遠そうです。

パルシックは、被災者への生活改善支援として、トルコ政府やその他の機関からの支援の行き届いていない農村地帯の村を中心に、食料バスケットと衛生用品の定期的な配付を行っています。今回の地震では、多くの人が直接あるいは間接的に影響を受けました。県の中心部にある県庁周辺では瓦礫が撤去され整地がされて再建が進んでいます。その一方、旧市街の路地に入れば崩壊した家々がまるで土砂崩れのあとのようにそのままの状態で残っています。国内の被害がなかった地域では、被災地への関心も薄れ、人びとの間で地震について語られる機会も少なくなりました。しかし、8月の時点でも農畜産業が全く再開されていない村々があるなど被災地の復興再建は未だ明確に見えない状態です。大切なのは長期的視野での継続的な活動です。震災が過去の出来事にならないよう、現地の人たちと共に地道な活動をしていきます。

（土橋）

（この事業は、ジャパン・プラットフォームの助成と皆さまからのご寄付で実施しています。）

食料バスケット配付の様子

人びとの声

カフラマンマラシュ・ギョクスン郡の村人

村人の方からは「わざわざ日本から支援に来てくれてありがとう」といった感謝の声が聞こえる傍ら、甚大な被害を受けたにもかかわらず、支援がなかなか届かず遅れていた状況に「必要なものはいくらでもある。支援があるなら来てほしい」と疲れ切った表情で漏らす住民もあり、被災地の厳しい現実を垣間見るとともに、自分たちには何ができるのか、ということを現場で活動しながら日々考えさせられています。

自身の農地で震災後の状況を語る村長（中央）

シリア　夜に安心して眠れる家を

2月6日のトルコ・シリア地震発生から半年以上が経ちましたが、シリア北部での復興は遅々たる状況です。シリア北部は、2011年から続く紛争の影響で、多くの学校や病院、インフラが地震の前から被害を受けていて、これらの修復が終わっていない中で地震が発生しました。

地震により多くの家屋が被害を受けました。しかし、長期にわたる紛争で国際機関やNGOの支援も徐々に減ってきていたため、震源地のトルコのようにプレハブ・コンテナや新築アパートがすぐには建設されず、被災者は避難キャンプでテント生活を余儀なくされています。

少し修復すれば自宅で元通りの生活ができるような世帯でも、再び地震が起きれば崩壊するのではという不安でキャンプに避難していたり、悪化する経済状況の中で生活費が足りず、修繕のための費用を工面できずにいたりしました。そこで、パルシックは、このような軽微破損した家屋の修繕の支援を行いました。家屋修繕を終えた世帯からは「生活費の負担が減っただけでなく、再び自宅で安心して暮らすことができ、特に不安を抱えていた子どもたちが、ようやく夜、安心して寝られるようになった」という声がたくさん届いています。

（大野木）

（この事業は、ジャパン・プラットフォームの助成と皆さまからのご寄付で実施しています。）

壁にヒビが入った家屋の修繕の様子

人びとの声

アハメッドさん

アハメッドさんの生活は、震災前からすでに厳しく、約50ドルの月収では日々、家族を養うのにも全然足りていない状況でした。「地震で自宅が軽微破損したため、パルシックの支援前から親戚や友人から700ドル近く借金し、家屋の簡単な修復を行っていました。パルシックの修繕支援により、借金の負担が減ったことで生活が改善し、また、家がつぶれるのか毎日心配する必要がなくなりました。支援に感謝しています」。

アハメッドさん（左）

定期勉強会を始めました―ボランティアの方々とともに

東京都葛飾区白鳥地区にあるコミュニティカフェ「みんかふぇ」は、地域のボランティアの方に支えられて運営しています。隔週で開催しているフードパントリー（食料配付）は、中心となるボランティアの皆さんが毎回テキパキと配付食材を準備し、段取りを整えてくれます。またボランティアさんの特技や、カフェを訪れる人とのつながりから、さまざまなイベントが生まれています。

月1回のボランティア会議は、ボランティアさんから活動を続ける上での課題や改善案が提起され実際に活動に反映されるなど、みんかふぇの運営に欠かせない存在です。今年の8月からは、住民の方々にも呼びかけて、居場所づくりや地域のことについて学ぶ定期勉強会を始めました。「コミュニティカフェ勉強会」、「葛飾区の地域課題について考える会」といったテーマで、大学や社会福祉協議会から外部講師を招いて、ボランティアを中心とした参加者が学びながら意見交換できる場となっています。日常的な活動のみならず、地域の課題に対してみんかふぇができることを広く考える中で、みんかふぇの運営をボランティアさんや地域のみんなで支えていく地盤が固まっていくとよいと考えています。

（小栗清香）

（この事業は、ジャパン・プラットフォーム、ニッセイ財団の助成と皆さまからのご寄付で実施しています。）

8月に開催したコミュニティカフェ勉強会の様子

人びとの声

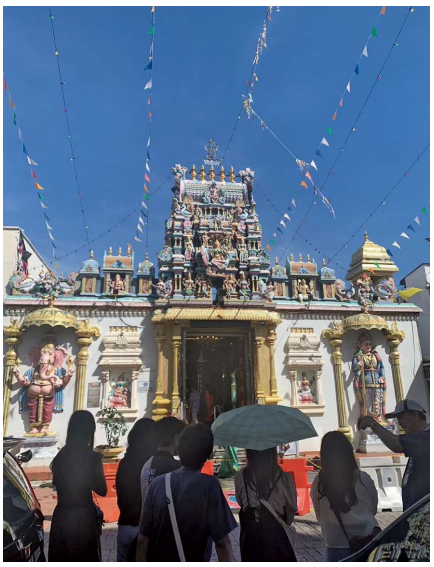
みんかふぇボランティア　秀島さん

秀島さん

もともとカフェが好きで、地元に居心地の良いカフェはないかなと思っていたところみんかふぇと出会いました。ボランティアさんと知り合ううちに自分でもトライしてみようという気持ちになり、不定期ながら、お手伝いをするようになりました。今ではボランティアさん、お客さんも含め仲間も増え、充実した日々をおくっています。みんかふぇは私にとって、いこいの場所です。

夏のマレーシア・ペナンでのフィールドワーク

今夏は、3大学の学生がフィールドワークでマレーシアのペナンを訪問しました。加えて、1大学がオンライン・フィールドワークに参加しました。多民族・多文化が混ざり合う世界遺産の街ジョージタウンの街歩きや、漁民グループとのワークショップ、パームオイルプランテーションの見学、現地NGOや現地の大学生と環境問題や移民の受け入れについての意見交換をし、マレーシアと日本という国を越えた学びだけではなく、世代間、人種間での学び合いがありました。



ジョージタウンでの街歩きでヒンドゥー教寺院の説明を受ける参加学生

フィールドワークの振り返りで「マレーシアの若者の投票率、政治への関心の高さに驚いた」「社会の変化のために自分たちももっと政治のことを学ぶ必要がある」という発言が多く出されたのが印象的でした。現地の大学生との交流、日本とマレーシア社会の課題について意見交換することで、それまで関心を持ってこなかった政治が、日本社会の課題の一つとして浮かび上がったようです。また、「国や文化を越えた人との交流が増えることで、日本社会がより寛容になり、若者が希望を持てるようになってほしい」との感想も出されました。

ペナンでのフィールドワークは、社会の課題だけでなく、個人が生きる希望を見つける場にもなってほしいと願っています。

（大塚照代）

人びとの声

現地で学生のサポートをする ペナン在住のレン恵さん

レン恵さん

1大学のプログラムで、現地でのサポートをさせてもらいました。参加者の学生は、最初は不安な様子でしたが、植林活動や民泊を始め、現地の大学生など地元の方々と交流をしていく中で、少しずつ話しかけたり、色々なことに挑戦したりする姿が見られ、短期間ではありましたが、成長を感じられました。帰国する際「日本にいたら気がつくことができない経験をたくさんすることができた」と話していました。今後も日本の大学生の皆さんをサポートできたらと思っています。

from Sri Lanka

エクサがつくる“みんなの店”

紅茶の茶木は2023年8月末から1か月続いた干ばつを生き抜くのに必死でした。エクサ（Lanka Eksath Organic Deniyaya、“Eksath”=Unitedで団結の意）の農家たちもこの影響で、収入を維持するのにとても苦労しました。10月に入ると雨が降り始め、農家も茶の木も雨粒を通して、笑顔を取り戻しました。8月、9月と有機栽培茶の生産量は減少しましたが、今後数か月で増加することを期待しています。

スリランカの観光業は少しずつ賑わいを取り戻し、海外からの旅行客も訪れるようになりました。エクサのエコツーリズムにも、2023年1月以降、10のグループが参加しました。彼らは農家が有機栽培の畑で懸命に働く様子を見たり、村の人たちの食事や日々の生活を体験したり、オーガニック製品を買ったり、デニヤヤの美しい自然を楽しんだりしています。エクサはビジネスとして、紅茶生産以外の収入源を増やすことに取り組んでいます。

▲開店した Ape Kade

2023年7月には、キリウェラドラ村の中に小さなお店“Ape Kade（みんなの店）”をオープンしました。建物は、土と屋根瓦を使ったスリランカの伝統的な方法でできています。森や村から拾ってきた天然資材を使い、メンバー自身が手作りしました。私たちエクサはそこでオーガニックの製品や牛乳、堆肥を販売しています。牛乳はエクサのコンポストセンターで搾ったものです。今後は、お茶やハーブティー、みんなが楽しめる手作りのお菓子も販売したいと考えています。さらにはエクサメンバーの有機スパイス（トウガラシやクローブ、シナモンなど）を集める集荷センターにもなる予定です。

スリランカは、今も経済的に厳しい状況にありますが、エクサメンバーの共通の希望は「子どもたちのために良い未来を作る」というものです。自分たちが農民であることに誇りを持ち、環境への負荷の少ない良い製品をつくり続けていくことがコミュニティや国をよくすると考えています。

（デニヤヤ事務所
Madusha W Narayana）

◀ Madusha。手に持っているのは農家さん手作りの伝統的な健康ジュース

この冬、ツアー開催予定

～持続可能な紅茶づくり～
スリランカ
ルフナ紅茶の産地を訪ねる旅
2024年2/18～2/24　5泊7日
＊詳細は Web サイトをご覧ください。

パルシックのフェアトレード商品

対等な交易を通じて、人と人のつながりと信頼を広げていくことこそが紛争の抑制、平和の形成に寄与すると考え、「商品の生産、流通、消費などが、市場の価格だけに依存するのではなく、人間的な交流と信用に基づく」という取引のかたちを目指して、直接的な交流、交易を重視しています。

＊
ParMarcheのコラム
「日々のこと」も発信中です。
ぜひご覧ください。

フェアトレード　日々のこと

2023年9月、今年は例年よりも早く、最初のコーヒー豆が日本に届きました。東ティモールではコーヒーシーズン真っ只中の6月から7月にかけて、季節外れの豪雨に見舞われました。農家さんは、せっかくコーヒーの実が熟しても収穫したあとの天日干しができず、他所に赤い実のまま売ったり、空模様を見ながら豆を出したり入れたりと工夫して切り抜けなければなりませんでした。8月からは乾季の陽気となり、組合の皆さんの努力もあって最終的な輸出総量は約90トンの見通しです。気候変動がコーヒー加工にもたらす影響はこれからさらに大きくなることが予想されます。農家さんが引き続き高品質なコーヒーを生産し続けることができるよう、コカマウ組合と一緒に対策を考えていきます。

2023年10月、2年以上の欠品が続いていた「アールグレイ紅茶」「ルフナ紅茶」のリーフタイプの生産体制が整い、輸出の船の調整に入りました。販売再開は12月初旬の予定です。干ばつや、他の畑から流れてきてしまった農薬の検出などがあり、皆さまには長くお待たせいたしました。数々の困難を乗り越えて、やっとお届けできます！

2023年4月～10月までの間に、高校や大学の学祭用にと委託販売のお取扱いが計20件ありました（昨年の同時期のまさに3倍です）。学校での行事が戻りつつあり、学生がそれぞれの想いや言葉でフェアトレード商品を広めてくださっているんだなぁとうれしく、こちらも案内に熱が入るのでした。

新商品のご案内

この秋、カフェ・ティモールシリーズに「ラテベース」が仲間入りです。東ティモール産100％使用の濃縮コーヒーにほんのり甘さを加えたもので、アイスでもホットでも、牛乳があればあっという間にカフェオレが楽しめます。

レバノンからはマウント・ヘルモン オリーブオイルが長い航路を経て日本初上陸。危機的状況が続くレバノンの、南部ハスバイヤ地区で活動するオリーブ生産者を緊急的に支える初めての試みです。甘味のあとにくるピリッとした辛みが特徴です。

＊お詫び：7月頃の販売予定が船の調整の都合で遅延しました。10月末の入荷後、食品検査に合格しましたら、11月中旬に販売開始予定です。

「東ティモール 美味しいコーヒーに出会う旅」開催報告

「こんなに大変だとは思わなかった」。これは、８月に開催したコーヒーツアーの参加者からの感想です。何が大変だったか、それは「道」です。今年、4年ぶりにコーヒー収穫期の開催となったツアーは、これまで道が険しく、車でのアクセスが難しかった「クロロ集落」を訪れました。昨年、集落への道が一部舗装されたため、今年の訪問先になりました。しかし、季節外れの雨の影響で未舗装部分の道はぬかるみ、車は何度もスタックし、集落の人たちがロープで車を引っ張るはめに。思わぬアクシデントは参加者の皆さんに強烈な印象を残し、また同時に東ティモールの人たちの「そこら辺にあるもので何とかしてしまう」強さ、みんなで助け合う共助の文化を垣間見る機会ともなりました。こうして、集落で摘まれたコーヒーは、山を下り、街に出て、海を渡って私たちの手元に届くのです。その遥かな道のりを体感する旅となりました。

倒木をシーソーにして遊ぶ子どもたち。
ここにも「何でも遊び道具にしてしまう」精神が。

美味しいコーヒーに出会う旅 ～フェアトレードコーヒーの産地を訪ねる in 東ティモール～
2023年8月3日（木）～ 8月10日（木）開催

ちょっと寄り道♪ フェアトレードな人びと

北アルプスの国立公園内に位置する乗鞍高原に住まい、地域づくりなどにも関わりながらNorikura Pioneer Roastersを営むマカリスターご夫妻。Personal/Fresh/Simpleという理念のもと、注文を受けてから週に一度の焙煎と直接のお届けを販売のスタイルとしています。使い捨てパッケージを使用せずにお客さまに専用の瓶を使用してもらうことでゴミを出さない営業形態を実践しています。

パルシックとのつながりは、開店前の2017年にパルマルシェで焙煎器と生豆のセットを購入したことがきっかけです。コカマウ組合のコーヒーに出会って以来、パルシックの取り組みが「人を大切にする」おふたりの考えに共通する部分があると、コーヒーを継続して購入して下さっています。2021年に開催した東ティモールオンラインツアーにはお子さんと一緒に参加され、ツアーを盛り上げてくださいました。

焙煎業の他にも地域や自然のためにとさまざまな事業を行う、乗鞍が大好きなおふたり。コーヒーの販売を通じて、いつも素敵なお話を聞かせてくださっています。

セツ＆ハナ マカリスターさん

Norikura Pioneer Roasters
https://norikurapioneer.com/

イベント開催や出店、講師登壇のご報告

イベントではコロナ禍前のようなオフライン開催も再開されはじめました。対面で、初めて、または久しぶりに会えてお話ができるありがたさを、改めて実感した半年間でした。新たな広がりとして、企業のSDGsへの取り組みの一環で、社内でのランチタイムを利用した講演会、販売会へお声がけいただく機会も増えています。

主催イベント

- 5月20日　東ティモールのこれから ～独立記念日に日本と東ティモールで考える～
- 5月25日　トルコ・シリア地震 支援の現場から
- 7月13日　ミャンマー講座：追いつめられる軍政？ ～クーデターから2年半、続くミャンマー市民の抵抗
- 8月24日　ミャンマー講座：映画監督から見たミャンマー
- 9月13日　ミャンマー講座：ミャンマー危機はなぜ終わらないのか
- 10月7日　お菓子で出会うパレスチナ
- 11月2日　ガザの声　パレスチナ緊急集会

他団体イベント・販売会

- 9月18日　ワタシのミライ NoNukes&NoFossil 出店
- 9月30日～10月1日　グローバル・フェスタ出店
- 6月21日、7月6日　SMBC日興証券 社内販売会
- 11月16日　SMBC信託銀行 社内販売会

講師・登壇

- 5月27日　世界フェアトレード・デー名古屋
- 8月31日　中央大学杉並高等学校 フェアトレード勉強会
- 9月9日　世界宗教者平和会議 トルコ・シリア地震学習会
- 10月11日　JICEYS 東ティモール同窓会
- 10月21日　UCCコーヒーアカデミー セミナー
- 10月29日　広島エコ祭り フェアトレードセミナー
- 10月30日　NPOの次世代継承セミナー

民際教育

- 4月～24年3月　箕面自由学園高校 シリアレポート
- 年度内4度実施　九州工業大学「ミャンマーでの教育支援事業」
- 5月23日　青山学院大学 東ティモール・コーヒーのフェアトレード
- 6月19日　八戸工業大学第二高校 貿易ゲーム・ワークショップ
- 7月12日　藤野シュタイナー学園 トルコ南東部地震被災者支援
- 9月29日　徳島県立名西高校 東ティモール・コーヒーのフェアトレード

2008年にパルシックがスタートしてから15年が経ち、活動地の数も、日々のレポートの数も増えてきました。11月末にリリースされる新Webサイトでは、デザイン面でも設計面でも、見たい情報へのアクセスのしやすさが大幅に改善されます。リニューアルされたWebサイトをぜひお楽しみに！

また、それに先行して、パルシックの活動地の人たちへ、心を寄せてくださる皆さまが、より活動に参加しやすいよう、寄付ページもリニューアルしました。活動地を指定して応援できるサポーター（継続寄付）もスタートしています。詳細は以下をご覧ください。

パルシック Webサイト & 寄付ページ リニューアル！

新Webサイトイメージ▶

皆さまのご支援によって支えられています

新しくなったパルシックサポーターに参加しませんか？

パルシックサポーターは、クレジットカードの毎月自動更新で、継続して活動を支えていただける仕組みです。特に応援したい活動地を指定してサポーターになることもできます（サポーター費は、その地域で特に必要としている部分に使わせていただきます）。

※サポーター費は寄付金控除の対象となります。

▶サポーターコース（クレジットカード自動更新）

毎月500円／1,000円／3,000円／5,000円コース

活動地指定　ミャンマー／パレスチナ／シリア・レバノン（シリア難民）／東ティモール／スリランカ／マレーシア／みんかふぇ（葛飾区での居場所づくり）

パルシックサポーター（継続寄付）、単発寄付のお手続き方法

Webサイト
https://parcic.org にアクセス
⇒ 寄付で応援する　から

パルシック会員募集

パルシックの趣旨に賛同し、総会等を通じてパルシックの活動に参加していただける会員、賛助会員を募集しています。

▶年会費

会　　員：10,000円
賛助会員：20,000円

※入会ご希望の方は、Webサイトよりご連絡ください。

12月は寄付月間！

あなたの寄付でパルシックの活動を支えてください。

みなさまの温かいご寄付をお待ちしています。レバノン越冬支援、パレスチナ ガザ地区への支援を特に募集しています。詳細は、民際ニュースに同封のチラシやWebサイトをご覧ください。

※パルシックは認定NPO法人です。パルシックへのご寄付、募金は、確定申告によって所得税、法人税、相続税などの寄付金控除を受けることができます。

- **クレジットカードでの寄付**　Webサイトよりお手続きいただけます。
- **郵便局からの寄付**　郵便振替口座：00140-8-536957　口座名義：パルシック
- **銀行からの寄付**　三井住友銀行　神田支店（普）2384136　口座名義：特定非営利活動法人パルシック

※銀行からお振り込みの際は、ご住所とお名前をご一報ください。

民際ニュースは年に2回（6月・11月）にパルシックが発行するニュースレターです。
送付の希望、送付先の変更、送付の停止については、
office@parcic.org
までご連絡ください。

民際協力ニュース　VOL.43　2023年11月

PARCIC
特定非営利活動法人 **パルシック**（認定NPO法人）
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル1F
電話：03-3253-8990　Fax：03-6206-8906
メール：office@parcic.org　Web：https://www.parcic.org

オンラインショップ ParMarche（パルマルシェ）
https://parmarche.com
X　@parcic_office　@parcic_ft
facebook　@parcic
Instagram　@parcic_tokyo
YouTube　@ParcicChannel